

国史跡
元屋敷陶器窯跡の災害復旧事業が始まりました



崩落した崖と作業用足場



崩積土の除去作業の様子

市内泉町久尻にある元屋敷陶器窯跡では、一昨年から今年にかけての度重なる豪雨により、復元展示されている東1号窯南面の崖が複数回にわたり崩落、復元窯にも亀裂が入り、通路や柵の一部も崩落するなど、大きな被害が生じていました。

今年度よりその復旧作業に着手することとなり、現在は復旧工事に先立って、崩積土の除去と土砂内から遺物採取する作業を進めています。崩積土の除去は全て手作業で行うしかなく作業は難航していますが、今年度中に崖面を、来年度は通路などを修復して再び見学していただける状態に戻す予定となっています。復旧工事完了まで大窯の見学はできませんが、連房式登窯については通常通り見学可能です。

国史跡乙塚古墳附段尻巻古墳の整備工事が進行中！

段尻巻古墳では、大きく2つに割れていた天井石の修復も完了し、現在は墳丘の整備工事が進行しています。天井石の修復方法については様々な検討がなされましたが、将来にわたって石室がより永く安定する状態を保つことができるよう、天井石破断面を接着剤で接ぐと共にステンレス棒で支える方法を採用しました。墳丘については、流出した盛土の一部を補う、石室への雨水の侵入を防ぐ防水シートを設置する、本来の墳丘規模を示すため墳丘裾部にブロックを置く等の工事を進めています。乙塚古墳も含め、全体の保存整備工事完了と史跡公園としてのオープンは来年度を予定しています。 ※現在、乙塚古墳と段尻巻古墳の見学はできません。



天井石取り外し作業の様子



天井石取り外し後の石室



天井石の再設置作業の様子



墳丘整備工事の状況(防水シート等設置中)

文化財保存活用拠点（仮称）整備事業について

土岐市では「文化財保存活用拠点（仮称）整備事業として、新たな博物館の建設に向けて準備を進めています。その一環として、7月に第一回基本構想検討委員会が行われました。ハード・ソフトの両面で様々な課題等が挙げられましたが、共通していたのは、「だれでも気軽に訪れたい施設にする」という意見でした。この事業の進行状況は、今後も市民の皆様へ発信していきたいと思っております。

土岐市文化財情報 美濃陶磁歴史館だより vol.11 2021年10月号

発行日／2021年9月24日
編集・発行／土岐市文化振興事業団（土岐市美濃陶磁歴史館）
〒509-5142 岐阜県土岐市泉町久尻 1263
TEL / 0572-55-1245
<http://www.toki-bunka.or.jp/history>
土岐市文化振興事業団では、土岐市教育委員会から美濃陶磁歴史館の運営と埋蔵文化財調査を受託しています。



美濃陶磁歴史館だより

展示や講座、発掘調査の成果、文化財関係事業のお知らせ



織部焼の文様：竜と鶴



世界的な陶磁研究者であり、「六古窯」の提唱者として知られる小山富士夫（1900-75）が、土岐市で晩年を過ごしたことをご存知でしょうか。陶芸家としての側面を持つ小山は、昭和48（1973）年に土岐市初代市長二宮安徳の招きにより市内五斗蒔へ移住して「花の木窯」を開き、短期間ながら精力的な創作活動を行いました。それ以前からも、小山は荒川豊蔵や塚本快示との交流によりたびたび美濃を訪れていました。特別展では、小山と美濃との関わりをたどりながら、小山の陶芸家としての一面をご紹介します。

種子島茶碗 銘「満月」
小山富士夫 花の木窯 1973年
愛知県美術館（木村定三コレクション）
〔前期〕



花の木窯の窯開きにて 1973年5月
右から荒川豊蔵、本多静雄（陶磁研究者）、二宮市長、小山富士夫 三浦悠撮影 岐阜県現代陶芸美術館提供

2021年 特別展

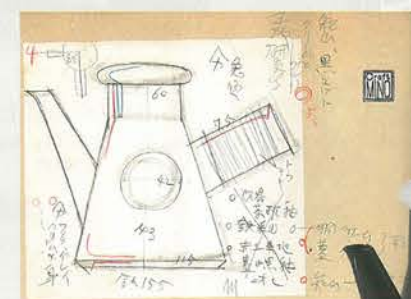
小山富士夫と美濃

Fujio Koyama and MINO - With the history of craft design in the Showa period -

—昭和の窯業界のあゆみとともに—

〔前期〕 2021 9.17 金 → 12.5 日 〔後期〕 2021 12.9 木 → 2022 2.13 日

小山が美濃との関わりを深めていった戦後、陶磁器デザイナーの日根野作三（1907-84）は、小山とは異なるアプローチで美濃の窯業界に大きな影響を与えました。機械化・量産化に向かう激動の時代、美濃をはじめとする窯業地でのデザイン指導を通して、手仕事の重要性を説き、クラフトデザインの精神を各地に伝え広めました。第2展示室では、日根野作三の美濃での活動を軸に昭和の美濃窯業界の様子をお伝えします。



デザイン画 日根野作三 1958-59年
多治見市美濃焼ミュージアム



急須 知山陶苑（クラフトミノ）1958-60年代
多治見市美濃焼ミュージアム〔前期〕



多治見にて日根野作三 1953年2月

※前期・後期で展示の入れ替えがあります
※新型コロナウイルス感染拡大状況により展示期間やイベントに変更が生じる可能性があります

第1部 小山富士夫と美濃

二宮市政の集大成として打ち出された美濃陶芸村構想。その第1号入村者として小山富士夫に白羽の矢がち、五斗時に「花の木窯」が開かれた。



花の木窯遠景 1974年11月



花の木窯窯開きの日、陶房前に並ぶ初窯の作品 1973年5月 三浦悠樹撮影 岐阜県現代陶芸美術館提供



瀬戸黒茶碗 銘「花ノ木」 荒川豊蔵 1935-44年 可児市荒川豊蔵資料館蔵 [前後期]



青白磁水指 小山富士夫 快山窯 1960-70年代 [前後期]



白掻落花生 小山富士夫 花の木窯 1973-75年 岐阜県現代陶芸美術館蔵 [前期]



種子島壺 小山富士夫 花の木窯 1973-75年 土岐市美濃陶磁歴史館蔵 [後期]

第2部 もう一つの戦後 美濃



土岐市陶磁器試験場にて 日根野作三(左)



第1回土岐市陶磁器試験場試作品展示会 安藤知山(左) 1968年 土岐市陶磁器試験場蔵



ベリーセット 知山陶苑 1950年代 土岐市美濃陶磁歴史館蔵(左) [後期]



紫斑紋コンボート 小谷陶磁器研究所 1951-58年 土岐市陶磁器試験場蔵 [前期]



獅子牡丹文三段重 安藤知山 1930-40年代 [前後期]



陶製下アノブ 小谷陶磁器研究所 1951-58年 土岐市陶磁器試験場蔵 [前期]

陶磁器デザイナー日根野作三と安藤知山を軸に、製陶所や陶芸家の間でクラフトデザインの精神が広がった。



小谷陶磁器研究所 2004年 小寺克彦撮影

《学芸員講座》

第1回「小山富士夫と美濃」

10月31日(日) 午後1時30分～午後3時

講師：春日美海

第2回「戦後の美濃窯業—日根野作三・安藤知山との関わりを軸に—」

11月28日(日) 午後1時30分～午後3時

講師：鍋内愛美

会場：土岐市文化プラザ3階 視聴覚室(土岐市土岐津町2121-1 土岐市役所となり)

定員：35名 ※先着順

[申込] 電話(0572-55-1245)またはメール toki_museum@toki-bunka.or.jp で ※メールには希望回(日付)、参加者の氏名、代表者電話番号、居住市町村名を記入。

《学芸員による展示解説》

10月2日(土)・11月3日(水・祝)・1月30日(日) 午後2時～

参加費無料 ※要入館料 定員：先着30名(事前申し込み不要)



鎌倉時代においては祭祀空間

鎌倉時代は、木樋(水を流すための木製の管)を用いた水路状遺構や陶器・木製品・鉄製品などが見つかりました。水路状遺構は複数確認され、古い水路の上や横などに新しい水路を構築していたため、全てが同時期に使用されたのではないことがうかがえます。また、一部の水路にはL字形に折れる箇所があったため、水を単純に流す排水機能以外の用途があったことを想定させます。

遺物には下駄や曲物、箸等の木製品や墨書が施された陶器、鉄鏃や鉄刀等の鉄製品、桃等の種子が多数出土し、その中でも箸は破片を含めると約2500本が見つかりました。箸や鉄鏃、墨書土器、桃は祭祀具として用いられたことが明らかとなっているため、水路状遺構が自然の谷底にあること、居住域の段丘面からは6～7mの高低差があること、すぐ西側を妻木川が流れていることを踏まえると、非日常的な場所(祭祀空間)として使用されたと推定されます。



複数の水路状遺構

土岐市教育委員会では、平成22年度から妻木南部土地区画整理事業に伴う発掘調査を行っています。これまでに約27,000㎡の調査を実施し、様々な時代の建物跡や土器、陶磁器、木製品等が多数見つかりました。今回の調査は、段丘面上と段丘崖下(谷)という立地が異なる2箇所で開催し、特に段丘崖下(谷)からは以下の大きな調査成果を得ることができました。



全国的にみても重要な発見が
続々

妻木平遺跡

約2500本もの「箸」が出土



曲物



墨書土器



鉄鏃

自然の谷を防御の堀に



鎌倉時代以降は、出土遺物が極めて少なくなるため、祭祀空間としては使われなくなり、自然の谷の状態であったと推定されます。その後室町時代に入ると、この谷は土岐明智氏の居館の北辺にあたる堀として機能していたようです。その状況は、谷の斜面を削り拡張している痕跡からうかがうことができます。この堀のすぐ西側は妻木川が流れているため、自然地形を巧みに利用した、非常に防御性の高い居館であったことがわかります。

その後、土岐明智氏の居館の堀へ